



Snowflake と Precisely Connect

ビジネスユーザーがより幅広いインサイトを得て、より適切な意思決定ができるように、最も価値の高いエンタープライズデータへのアクセスを確保



precisely

Snowflake Data Cloudウェアハウスは、アナリティクス、データレイク、ソース データ共有などの新たな ITプロジェクトの焦点となりつつあります。ところが、こうした新しいプロジェクトに求められる重要なデータアセットを処理し、保存しているのは、数十年も前のレガシー システム (メインフレームおよび IBM i を含む) です。Snowflakeユーザーが関連するすべての情報を常に利用できる状態を確保するために、企業が求めているのは、データソースをプラットフォームに直接取り込み、ソースデータに変更があればその内容を伝達するシンプルで低コストなソリューションです。そこで、Precisely がお役に立ちます。

Snowflake と Precisely を併用すると、お客様のビジネスに最善の結果をもたらすことができます。Precisely の専門アプローチと50 年を超える実績は、以下の豊富なデータソースに直接アクセスし、認識できることを意味します。

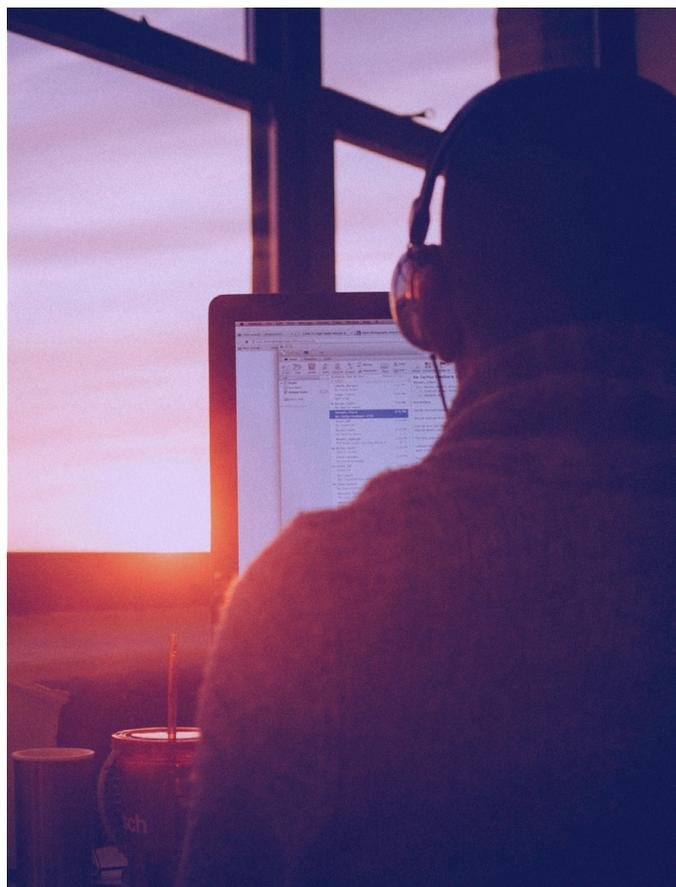
- **RDBMS:** Oracle、SQL、Db2、MySQL、Sybase、PostgreSQL
- **メインフレーム データ:** VSAM、COBOL Copybooks、メインフレーム固定およびシーケンシャルファイル
- **半構造化データ:** JSON、XML
- **エンタープライズ データ ウェアハウス:** Teradata、IBM Netezza、Vertica、Greenplum
- **クラウド:** Amazon AWS、Microsoft Azure、Google Cloud Platform
- **ビッグ データ:** Hadoop、Hive
- **ストリーミング プラットフォーム:** Apache Kafka
- **フラット ファイル:** 固定長、可変長、区切り記号付き

ビジネスのスピードに合わせた Snowflake へのデータサイロ

IBM i、メインフレーム、その他のレガシー データをSnowflake に簡単・迅速に統合し、重要なデータを利用できるようにすると、アナリティクス時間を短縮し、データレイクにデータを書き込み、データウェアハウスを最新化することができます。Preciselyのデータ統合ソリューション「Connect」を使用すると、任意のソースから1つのフロー内でSnowflakeにアクセスし、データを変換して読み込むことが可能です。Snowflakeにデータを取り込めば、そのデータは他のデータソースと区別されなくなり、既存または新規のプロセスでいつでも使用できます。

Connect の機能は以下のとおりです。

- Db2/z 接続: Db2 API、ODBC または JDBC (バッチ用) または変更データ検出 (CDC) との接続
- リレーショナル Snowflakeテーブルとの階層メインフレーム データセット統合
- Amazon AWS、Microsoft Azure、Google Cloud Platform で Snowflake への読み込みをサポート



データ変更をリアルタイムで Snowflake と共有

Snowflake でレガシーシステムからのデータが期限切れになったり、最新ではなくなったりしないかと心配する必要はありません。Connect のリアルタイム データレプリケーション機能を使用すると、データパイプラインを構築し、レガシーシステムからのデータ変更を Snowflake と共有できます。Connect は、高性能、回復力、フォールトトレランス、回復性の高いデータ配信を提供する一方、お客様の企業全体からデータを Snowflake にレプリケートします。



ビジネスには好影響、システムへの影響はなし

Connectは効率性に優れ、フットプリントが小さいソフトウェアですが、最新のデータアーキテクチャを管理、保護、制御するために必要な包括的サポートを提供します。Preciselyを使用すると、パフォーマンスを下げずに膨大な量の重要な企業データを Snowflakeに読み込むことができます。Connectは、データ統合ワークフローによってお客様のビジネスが失速することがないように、さまざまな Snowflake設定をサポートします。

クラウド環境全体に展開

Precisely は、お客様が必要とするとき、必要な場所でビジネスにデータ統合を展開する柔軟性を提供します。データ統合ワークフローを一度可視化すれば、場所を選ばずに（オンプレミスでもクラウドでも）ワークフローを展開でき、再設計、再コンパイル、再作業は不要です。

Connect の柔軟なアーキテクチャは、パブリック/プライベート/マルチクラウドおよびハイブリッド クラウド環境での展開に適しています。

